

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3490100165
法人名	医療法人 好縁会
事業所名	グループホームふれあい段原
所在地 (電話番号)	〒732-0819 広島市南区段原山崎3丁目6-1 (電話)082-513-5588

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒734-0007 広島市南区皆実町1-6-29		
訪問調査日	平成20年7月25日	評価確定日	平成20年8月27日

【情報提供票より】(20年7月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	15 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 5,25

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨	
	3階建て	2階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	日額 2800円	その他の経費(月額)	実費	
敷金				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 150,000円	有りの場合 償却の有無	有 (期間;3年)	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,050円			

(4) 利用者の概要(7月3日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	7名	要介護2	7名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84,8 歳	最低	73 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	下山クリニック・マツダ病院・イースト歯科・クリニックふれあい東雲
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

設立1年未満の当ホームは、比治山地域の再開により街の角地に建てられ、1階にはサービスを設け2・3階には”グループホームふれあい段原”を設けるなど、設立当初より、全職員の地道な努力の成果により、地域に支えられた良い付き合いが確保されている。また、全職員は、他に余り例を見ない法人独自に設けられた研修体制(マイスター制度)の基で、職員はその目標に向けて日々切磋琢磨し、介護サービスの質の向上を目指した環境を整え人材を育てる仕組みがあり、全職員挙げて常に努力を行いながら事業所のみならず、地域全体の介護の質の向上の取り組んでいることが伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 当該ホームは、開設8ヶ月余りのため今回が初めての評価であり、改善点は該当なしである。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 開設時より様々な問題に取り組んできた当ホームは、初めての自己評価の取り組みにあたって再度スタートラインに立ち戻り、管理者・職員は気付き等をよく話し合い、更なるサービスの質の向上を目指し努力されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、開設後2回開催され事業所は当初から積極的に地域代表の方々に呼び掛け、会議の意義やホームの役割について伝える一方、会議には設立後日数が浅いにも関わらず、地域包括センター・地域代表者・家族のほか複数の民生委員の参加をいただきながら、活発な意見交換が行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族等と職員とは、気軽に意見交換できる体制は確保されている。また、様々な相談事などがあればその都度管理者・職員間でミーティングなどを行い運営に反映されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 開設時より、民生委員の協力の下で地域の交流会に参加したり、ホームを紹介する等の係りもち、近くの中学校の総合学習の一環として”介護に関する”講演の講師を引き受け、また、職場体験の場としての受け入れを申し出る等して積極的に地域との連携に取り組む努力がなされている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念を基に管理者、職員は的確な目標をもって取り組み、日々の介護に活かす努力がされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議等では、理念に触れ確認しながら話し合うよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設後間がないにも係らず、日常的に馴染みの関係を作っており、また、地域の様々な行事にも卒先して参加するなど積極的に地域の人々と接点をもつように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義や活用は管理者、職員共に理解し取り組んでいる。また、改善すべきは積極的に行うなどしてサービスの向上に活かした取り組みも行われている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、定期的に行われており参加者と積極的に話し合う等、地域に届け込んだホームとしての位置付けが確保され、サービスの向上に活かすよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を通じていろいろなことを相談するなど機会をつくり、サービスの向上に取り組んでいる。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の個々の状況を家族の来訪時に伝えたり、毎月の手紙や機関紙などで報告を行い、変化があれば個々に話し合いの場を設けている。また、金銭管理状況も詳細に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・苦情等を聞く体制は確保されており、苦情・相談などは要因を探り課題を検討し、運営に反映されるよう努力がされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による影響は余り無く、利用者に支障がないよう配慮がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当法人独自の、介護のためのマイスター制度の下で職員の質の向上を目指した育成方法が設けられており、働きながら様々な研修を受けたり資格を取得できる仕組みが確保されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、同一法人内のグループホームと月に1度話し合いなど行いサービスの質の向上に取り組むよう心掛けている。	○	今後は、管理者のみに留まらず職員レベルに至るまで、ネットワークづくり等交流に取り組まれるよう期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族と相談しながら、場の雰囲気に馴染めるよう職員がサポートしている。また、必要に応じて事前に体験してもらう仕組みが確保されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日頃から職員は、利用者と一緒に過ごし”見守り・寄り添い支え合う関係づくり”を築きながら支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の暮らしの中で、利用者の希望や意向を聞き、自身の思いが伝えにくい方には何を希望されているか把握しながら、一人ひとりの過ごし方を大切に努力されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全体で話し合う機会は設けられていないが、利用者・家族・職員の意見を基にケアプランを作成し、職員間で情報を共有している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の現状に応じて介護サービス計画を見直し、再度計画を立て介護サービスを行っており必要に応じて説明し、協力をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	家族のその時々要望に応じ、関連の医療機関や福 祉・介護施設と連携し、柔軟な支援を行う体制が確保 されている。		
・介護					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	週に1度はホームの主治医や提携医療機関の往診な どにより日頃から連携しながら、利用者・家族の希望に 応じて適切に医療を受けられるよう支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	家族の意向に沿って重度化した場合、全員で方針を 共有するよう具体的な体制づくりが期待される。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いを していない	それぞれの尊厳を守り、法人内研修の基、慎重に 扱うよう配慮され記録簿などの収納・管理も確保されて いる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ”待つ介護”を職員は心掛 け、一人ひとりの心に寄り添った生活を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員と利用者が買い物・準備・後片付けなど行い、また、語り合い楽しい時間を共にしながら摂食している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の習慣や意向に沿って柔軟に対応し、体調なども常に考慮して入浴方法も替えるなどしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常的な家事作業や趣味など一人ひとりの楽しみ事や能力にあった支援がされており、馴染みの場所に出掛けるなどの外出も行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状態や、希望、季節等その時々状況に応じて、一人ひとりの利用者のニーズに寄り添い外出などを楽しめる支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員は鍵をかける事の弊害を理解している。当ホームは、鍵をかけない事を方針として、自由に家族や外来者が訪問出来る体制が出来ている。また、利用者の安全などを優先し家族の同意のもと止む終えず施錠する場合もある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は法人やホーム独自の避難訓練に参加し、災害に対して対応出来るよう努めており、近隣住民とも協力が得られるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の利用者の嗜好・食事・水分(目標 1日/1000ml)は把握されており、一人ひとりの利用者の栄養バランスや体調に合わせて対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は季節感を出すため飾りを替えたり、リビングは窓を通して明るく、常に居心地よく過ごせる為の家庭的な雰囲気づくりがなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談して馴染みの品を配置し、居室において安心・安全を心掛けるなど本人が居心地よく過ごせる工夫が伺える。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームふれあい段原 2F・3F

評価年月日 2008年 7月 1日

記入年月日 2008年 7月 3日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 介護職 氏名 田中 知子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	・ブレインストーミング法にて各ユニットごとの理念を作成している。 年に1度更新予定。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	・各ユニット、リビングに法人理念を掲げ全員が共有できるようにしている。 また、全体会議にて具体化し実践に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	・法人理念をリビングに、ユニット理念を入口に掲げ、どなたにも見て頂けるようにしている。今後は家族会や広報誌にも掲示していく方針としている。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	・地域の交流会に参加させて頂いたり、運営推進会議の場や見学者の方に、いつでも立ち寄って頂きたい旨お伝えしている。 ・近隣の方への挨拶は必ず行き交流を持つように心掛けている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	・まだ、町内会が立ち上がっていないが地域の交流会には参加させて頂いている。 ・今後、地域活動には積極的に参加していく方針。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	・介護等に関して困った事がある時には、気軽に立ち寄ってもらえるよう、包括支援センターや各町内会長にグループホームの存在をお知らせ頂いている。スタッフは知識向上の為、研修会等には積極的に参加している。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	・外部評価について理解不足がある。	○	・外部評価の目的や意義を十分に理解できるよう、全スタッフに周知していく必要がある。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・会議から会議の2ヶ月間の生活状況を写真撮影したものをパソコンにまとめ、会議で見ている。 ・頂いた意見は早急に改善できるよう取り組んでいる。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	・地域行事や手伝い等がある際には連絡頂き、参加していく方向で。 ・現段階ではまだ行っていない。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	・現段階では勉強会は出来ていない。	○	・成年後見制度を利用している入居者様もいらっしゃる為、今後行っていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・虐待防止委員会を作り、話し合いの場を設けている。 ・内容は議事録にて全職員に周知させている。	○	・法関係については今後勉強会を行っていく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>・契約書や重要事項説明書に基づき、説明をさせて頂いている。 その後、不明な点や質問等を伺っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。</p>	<p>・入居者様に担当をつけ、個別にゆっくりと話を する機会を作っている。 担当に話しにくいことは、他スタッフに話せる環境づくりを目指している。</p>		
14	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>・月に一度、担当者が生活状況等ご家族への手紙を記入し、請求書と共に送付している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>・機会は設けていないが、今後は箱等を用意し苦情や不満を記入頂く方向で検討している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>・フロアミーティングにて業務に関する改善案を出してもらい、フロア状況に合わせて対策を取っている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>・各ユニット、管理者 兼計 画作成担当者の為可能な限りどちらかが日勤帯で勤務し、急な来客・要望や相談にも対応できるようにしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員や入居者様のユニット間の行き来を頻繁に行う事で交流をもち、顔見知りの関係を作っている。 ・現段階では職員の移動は行っていない。 		
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内に研修委員会があり、内部研修（ステップアップ研修）を行っている。 ・外部研修に関しても、研修費補助や勤務内参加があり、研修に参加しやすい体制がある。 		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・現在行われていない。 	○	・現在はできていないが、今後交換研修等を行っていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内の各グループホームの職員同士で情報交換を行う予定。（9月に計画） ・定期的に、また随時 相談を受ける事が出来る体制がある。（個人面談等も行っている。） 		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・マイスター制度を導入し、年に一回筆記・実技試験を施行し、技術・知識の向上を目指している。 		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限りご本人様から状況を伺い、少しでも不安を取り除けるような対応ができるよう、努力している。 		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	・ご家族から十分に話を聴き、安心して任せて頂けるよう意向や不安を伺っている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・他のサービスの情報も可能な限りお知らせできるよう、居宅支援事業所と協力している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	・入居前に何度か訪問したり、グループホームに来所頂いたりしながら、職員やホームの雰囲気に慣れて頂けるようにしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・可能な限り共に生活をし、出来ることはご自分で行って頂けるような支援をしている。 ・見守り・寄り添うケアを目指している。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	・ご本人の状態を細かくお知らせすると共に、その時々不安や心配ごとを聞き、ケアの方向性を一緒に考えている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	・センター方式を導入し、過去の出来事や関係を把握し、より良い支援を目指している。 (現在作成途中)		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき た項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>・グループホームに来やすい雰囲気づくりや対応を行い、人とのつながりを絶やさないようにしている。</p>	○	<p>・馴染みの場所については、なかなか提供ができていない。 ・ご本人がご希望とする場所へお連れできる機会を作りたい。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>・普段の生活の中で、入居者間に入り会話を促したり、より良い関係が築けるように支援している。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>・継続的な関わりを必要とするケースは出ていない。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div>				
1 一人ひとりの把握				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>・各入居者担当が、密な関係を作れるよう努力し、思いを聞き出すようにしている。また、担当では困難な場合は職員を変えて対応している。</p>		<p>・ご自身の思いが伝えきれない方に関しては、ご本人がどのような生活を望んでいるか把握する努力をしている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>・ご家族やご本人より生活環境を伺ったり、生活の場面から見つけ出せるよう努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>・ご本人が出来る事を生かしたケアプランが作成できるよう、日々の生活状況の把握に努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	<ul style="list-style-type: none"> 全体で話し合う機会は設けていない。本人・家族・職員間 それぞれその時々で意見を聞き出すようにしている。 それを基に介護計画を作成している。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 今後は、ご本人・ご家族とケアカンファレンスを行っていきたい。
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	<ul style="list-style-type: none"> 期間に応じて見直しをおこなっている。 見直し以前の変化は現在出ていない。 		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> できる限り詳細な記録を心掛け、その記録を基に各担当が介護計画を立てている。 		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限り、ご本人やご家族の要望に沿えるように努めている。 		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの方に来所頂いたり、警察や消防にもご協力頂いている。(防災訓練等) 		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	・現在そのような例はない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	・現在そのような例はない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	・週に一度の往診にて、ご本人の話や訴えまた、職員の話をしっかり聞いて頂いている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	・かかりつけ医によって行われている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	・週に一度、訪問看護に来て頂き健康管理を行って頂いている。24時間体制で連絡が取れるようになっている。 ・医師や看護師との連携はとれている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	・入院時は、衣類の交換に行った際に状態を伺い経過を確認したり、ご本人と話をする時間を作っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	・具体的な話し合いは出来ていない。	<input type="radio"/>	・早急に対応していきたい。
48	重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	・具体的な話し合いは出来ていない。	<input type="radio"/>	・勉強会やミーティング等で、今後検討・準備していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	・ご本人が生活していた状態に近い居室作りを行っている。 ・使い慣れた家具をできるだけたくさんお持込み頂いている。	<input type="radio"/>	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	・言葉遣いに関しては、接遇に関する講習会を開催したりして、その場にふさわしい言葉かけができるように努力している。 ・記録類もスタッフルームより持ち出さないよう、徹底している。	<input type="radio"/>	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	・できるだけご本人と向き合う時間を作り、できる事はご自身で考えて行って頂くケアを基本としている。	<input type="radio"/>	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・可能な限りペースに合わせる努力をしている。	<input type="radio"/>	・ご本人のペースは大事にしているが、すべての面においては困難で、職員のペースで行っていることもある。「待つ介護」をできるだけ実践し、希望に沿えるケアをしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	・訪問理容に来て頂いているが、ご希望の方は別の美容院に行かれています。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・買い物から食事の準備、片付けに関して可能な限り入居者で行うようにしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	・行事等においては、お酒を提供する事もあるが、普段の生活で飲まれている方はいない。 ・現在、煙草を好まれる方はいらっしゃらない様子。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	・基本として、極力オムツは使用していない。紙パンツもできるだけ使用せず、リハビリパンツや布パンツで対応している。個別に排泄パターンを把握するよう個々に誘導している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	・ご希望を聞き、なるべく希望されるように入浴して頂いている。 ・時間は、午後からになっているが午前中は状況に応じてシャワー等で対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	・閉じこもりにならないように注意しながら、日中は自由に過ごして頂くようにしている。ご自身で判断が困難な方は必要に応じて臥床時間を作り、対応している。 ・ソファや畳を置き、休憩できるスペースを提供している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	--------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	・個別に役割を見つけ、日課として行って頂いている。 ・誕生日会や月に一度の行事を行ったり、散歩等にも積極的に出ている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・希望や能力に応じて、ご本人に管理して頂いている。 ・必要に応じて買い物ができるよう家人にも協力して頂いている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	・買い物に同行して頂いたり、希望に応じて散歩やドライブに行ったり、花の水やりや日向ぼっこ等、少しでも外に出れる工夫をしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	・皆で楽しめる場所には、外出行事として遠出をしたり、仲の良い数人でお弁当を持って外出したりできる限り外出の機会を作っている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・ご希望があれば電話をかけて頂いたり、取次ぎを行っている。 手紙を書かれる方は、ポストまで一緒に出しに行ったりといった支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	・来訪者と話ができるスペースを作っている。 また、各階の玄関までのお見送りや、必要に応じて1階玄関まで入居者様とお見送りをしている。		

(4) 安心と安全を支える支援

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・身体拘束防止委員会による、ケースに応じたミーティングを行っている。	○	・禁止の対象となる行為に関しては、正しく理解できていない部分もある。 ミーティング等開催していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	・施錠はせず、入口に鳥の声のセンサーを設置し出入りの際に注意をはらせる環境を作っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	・入室時には必ずノックをして入室する。 ・不在の場合には許可を得て入室する。 (不在の場合でも入室時には「失礼します」の声をかける。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	・各ユニットの状況に応じてポットをキッチン内に納めて使用したり、鉢植えの土部分にネットをかぶせたりして対応できる範囲で取り組みをしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	・個々の緊急対応のマニュアルを作成し、個別記録に綴じている。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	・内部研修で緊急時の対応について学習している。	○	・今後は消防による心肺蘇生法等、学ぶ機会を作りたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	・具体的な話し合いは行われていない。	○	・地域の方々と防災、災害時の対策について話し合いの機会を設けていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	・状況に応じて、その都度ご家族に説明をさせて頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	・日頃からしっかりと個々の状態を見て小さな変化も見逃さないように努めている。 ・普段から報告・連絡・相談を心掛けている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・全入居者の状況は理解しきれていない。 ・薬が変更になった際は、記録に残し全職員が把握し症状の変化の確認ができるようにしている。	○	・一人一人の薬について把握する努力をしていきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	・朝食時に牛乳を提供したり、繊維の多い食事やバナナジュース等を提供している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	・毎食後、歯ブラシを用意し声掛けを行っている。 ・ご自身で十分に磨けない方は職員により仕上げ磨き等を行っている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・個々に水分量を記録し、1日1000ml以上を目標に提供している。 摂取状況に応じてゼリー等で対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> 各マニュアルを作成し、回覧後ファイルにまとめている。 外から入る際(面会者も)手洗いをして頂くよう徹底している。 		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> 肉・魚・野菜・生モノ用それぞれのまな板、包丁、ボウルを用意している。キッチン内も定期的に掃除し、冷蔵庫内も肉・魚・野菜等それぞれ入れる場所も決めてある。 食品の在庫は極力置かないようにしている。 感染症対策委員会を定期的に開催している。 		
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> 1階がデイサービスの為、案内を掲示している。 花壇に花を植えたり、少しでも在宅の雰囲気が出せるよう工夫している。 今後、18名分の表札を作成予定。 		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> リビングに花を飾ったり、クリスマスや七夕等の季節の飾りを置いたりしている。 畳のスペースを設け、少しでも家庭に近づける工夫をしている。 		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ソファでくつろいで頂いたり、畳のスペースは本棚で目隠しをし、周りをあまり気にせずゆっくりと過ごして頂けるよう工夫している。 		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・居室内の家具や持ち物等は、ご本人の使い慣れた物をお持ち頂くようお願いし、なるべく以前の住まいに近い形で、過ごして頂ける様にしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	・共用スペースはもちろん、こまめに居室に訪問し、温度を適温に保つようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・車イストイレの設置位置や手すりには、安全に身体機能を生かせる作りになっている。 ・廊下や浴室等に手すりを設置。		・リビングの椅子やテーブルの高さを、一人一人に合わせて調節し、安楽な姿勢で食事が摂取できるようにする予定。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	・できること、得意なことをやって頂き自信をつけ、自立した生活が送れるように支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	・花壇に花を植えて、水やりや手入れ等を入居者の日課として行っている。 ・野菜を植えて、収穫の楽しみも取り入れている。		